

平成29年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

都道府県名	兵庫県		市町村類型	II-2		指定団体等の指定状況		区分		区分		平成29年度(千円・%)	平成28年度(千円・%)							
						財政健全化等	×	歳入総額	平成29年度(千円)	平成28年度(千円)	区分			平成29年度(千円・%)	平成28年度(千円・%)					
市町村名	高砂市		地方交付税種地	I-5		財源超過	×	歳入総額	35,615,949	34,017,504	実質収支比率	2.9	1.8							
						首都	×	歳出総額	34,823,834	33,481,507	経常収支比率	91.8	94.9							
						近畿	○	歳入歳出差引	792,115	535,997	(※1)	(99.5)	(103.7)							
						中部	×	翌年度に繰越すべき財源	194,477	163,596	標準財政規模	20,321,588	20,268,459							
人口	27年国調(人)	91,030	産業構造(※5)		過疎	×	実質収支	597,638	372,401	財政力指数	0.90	0.90								
	22年国調(人)	93,901			山振	×	単年度収支	225,237	32,175	公債費負担比率	12.7	13.7								
	増減率(%)	-3.1			低開発	×	積立金	187,230	171,322	健全化判断比率										
住民基本台帳人口(※7)	30.01.01(人)	92,020	第1次	27年国調	242	22年国調	214	線上げ還金	0	0	実質赤字比率	-	-							
	うち日本人(人)	90,930		うち日本人(人)	92,770	0.6	0.5	積立金取崩し額	309	1,300,050	連結実質赤字比率	-	-							
	29.01.01(人)	92,770	第2次	うち日本人(人)	91,695	14,857	15,308	実質単年度収支	412,158	-1,096,553	実質公債費比率	10.0	11.1							
	うち日本人(人)	91,695		うち日本人(人)	91,695	14,857	15,308	基準財政収入額	13,212,351	13,665,761	資金不足比率(※4)									
	増減率(%)	-0.8	第3次	うち日本人(%)	-0.8	37.0	37.5	基準財政需要額	14,877,021	15,087,116										
	うち日本人(%)	-0.8		うち日本人(%)	-0.8	25,017	25,277	標準税収入額等	17,033,298	17,616,059										
面積(km ²)	34.38		62.4	62.0			経常経費充当一般財源等	19,420,989	19,464,548											
人口密度(人/km ²)	2,648						歳入一般財源等	23,557,871	24,148,492											
世帯数(世帯)	36,340																			
職員の状況(※8)																				
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	33,872,725	33,055,213									
	市区町村長	1	10,120		一般職員	623	1,979,894	3,178	うち公的資金	25,326,583	23,626,146									
	副市区町村長	1	8,320		うち消防職員	95	288,135	3,033	債務負担行為額(支出予定額)	38,599,084	40,877,546									
	教育長	1	7,020		うち技能労務職員	63	219,366	3,482	収益事業収入	-	-									
	議会議長	1	6,290		教育公務員	22	75,339	3,425	土地開発基金現在高	30,000	30,000									
	議会副議長	1	5,750		臨時職員	-	-	-	積立金現在高	2,278,114	2,091,193									
	議会議員	19	5,220		合計	645	2,055,233	3,186	減債基金	1,693,708	1,555,139									
					ラスバイレス指数				99.7	その他特定目的基金	1,013,527	1,015,013								
	一般会計等の一覧																			
	項番	会計名	事業会計の一覧		項番	会計名	公営企業(法適)の一覧		項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧		項番	組合等名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番	団体名
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険事業特別会計	(6)	水道事業会計	(10)	兵庫県市町村職員退職手当組合	(15)	高砂市施設利用振興財団											
(2)	広域ごみ処理事業特別会計	(4)	介護保険事業特別会計	(7)	工業用水道事業会計	(11)	加古川市外2市共有公会堂事務組合	(16)	高砂市勤労福祉財団											
		(5)	後期高齢者医療事業特別会計	(8)	病院事業会計	(12)	兵庫県後期高齢者医療広域連合(一般会計)													
				(9)	下水道事業会計	(13)	兵庫県後期高齢者医療広域連合(特別会計)													
						(14)	東播磨農業共済事務組合													

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている。
 ※7: 人口については、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。○

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	16,703,785	46.9	15,373,963	78.8	普通税	15,373,963	92.0	259,146
地方譲与税	203,378	0.6	203,378	1.0	法定普通税	15,373,963	92.0	259,146
利子割交付金	25,819	0.1	25,819	0.1	市町村民税	6,076,909	36.4	259,146
配当割交付金	92,806	0.3	92,806	0.5	個人均等割	152,254	0.9	-
株式等譲渡所得割交付金	93,520	0.3	93,520	0.5	所得割	4,442,130	26.6	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	272,635	1.6	46,307
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	1,209,890	7.2	212,839
地方消費税交付金	1,592,342	4.5	1,592,342	8.2	固定資産税	8,537,309	51.1	-
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	8,488,249	50.8	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	196,535	1.2	-
自動車取得税交付金	73,030	0.2	73,030	0.4	市町村たばこ税	563,210	3.4	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	釧産税	-	-	-
地方特別交付金	74,702	0.2	74,702	0.4	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	1,973,329	5.5	1,655,077	8.5	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	1,655,077	4.6	1,655,077	8.5	目的税	1,329,822	8.0	-
特別交付税	318,252	0.9	-	-	法定目的税	1,329,822	8.0	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	入湯税	-	-	-
(一般財源計)	20,832,711	58.5	19,184,637	98.3	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	17,848	0.1	17,848	0.1	都市計画税	1,329,822	8.0	-
分担金・負担金	242,421	0.7	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	427,628	1.2	173,081	0.9	法定外目的税	-	-	-
手数料	93,151	0.3	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	5,570,009	15.6	-	-	合計	16,703,785	100.0	259,146
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	2,091,959	5.9	-	-				
財産収入	304,875	0.9	135,973	0.7				
寄附金	41,382	0.1	-	-				
繰入金	23,708	0.1	-	-				
繰越金	535,997	1.5	-	-				
諸収入	1,833,447	5.1	549	0.0				
地方債	3,600,813	10.1	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	1,633,213	4.6	-	-				
歳入合計	35,615,949	100.0	19,512,088	100.0				

区分		平成29年度		平成28年度	
徴収率	現・計	99.2	95.3	99.1	94.7
(%)	年・計	99.2	95.7	98.9	94.7
		99.3	95.1	99.3	94.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	7,230,063	実質収支	437,642
下水道	2,963,462	再差引収支	141,371
病院	1,220,700	加入世帯数(世帯)	12,654
上水道	11,767	被保険者数(人)	20,619
工業用水道	-	被保険者	90
国民健康保険	888,956	1人当り	保険税(料)収入額
その他	2,145,178		国庫支出金
			101
			保険給付費
			345

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	305,630	0.9	-	305,621	-
総務費	3,423,317	9.8	295,332	2,875,374	2,875,374
民生費	12,678,069	36.4	246,915	6,011,947	6,011,947
衛生費	4,834,256	13.9	1,462,098	3,288,026	3,288,026
労働費	39,291	0.1	3,780	39,216	39,216
農林水産業費	263,675	0.8	76,811	191,248	191,248
商工費	653,496	1.9	65,864	116,514	116,514
土木費	6,018,054	17.3	1,945,084	3,918,354	3,918,354
消防費	973,980	2.8	64,400	883,228	883,228
教育費	2,615,444	7.5	286,659	2,153,750	2,153,750
災害復旧費	-	-	-	-	-
公債費	3,018,622	8.7	-	2,982,478	2,982,478
諸支出金	-	-	-	-	-
前年度繰上充入金	-	-	-	-	-
歳出合計	34,823,834	100.0	4,446,943	22,765,756	22,765,756

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	17,166,833	49.3	11,002,717	10,920,920	51.6
人件費	6,112,711	17.6	5,567,805	5,499,533	26.0
うち職員給	4,120,989	11.8	3,630,389	-	-
扶助費	8,035,500	23.1	2,452,434	2,438,909	11.5
公債費	3,018,622	8.7	2,982,478	2,982,478	14.1
元利償還金	3,018,091	8.7	2,981,947	2,981,947	14.1
内 うち元金	2,783,301	8.0	2,747,157	2,747,157	13.0
訳 うち利子	234,790	0.7	234,790	234,790	1.1
一時借入金利子	531	0.0	531	531	0.0
その他の経費	13,210,058	37.9	11,354,461	8,500,069	40.2
物件費	3,812,119	10.9	3,510,687	2,672,144	12.6
維持補修費	121,197	0.3	120,278	120,278	0.6
補助費等	5,222,910	15.0	4,916,803	3,566,945	16.9
うち一部事務組合負担金	-	-	1,876	1,876	0.0
繰出金	3,024,124	8.7	2,459,473	2,140,702	10.1
積立金	347,708	1.0	347,220	-	-
投資・出資金・貸付金	682,000	2.0	-	-	-
前年度繰上充入金	-	-	-	-	-
投資的経費計	4,446,943	12.8	408,578	89,809	
うち人件費	98,756	0.3	89,809	-	-
普通建設事業費	4,446,943	12.8	408,578	-	-
うち補助	2,543,637	7.3	146,129	-	-
うち単独	1,885,911	5.4	253,967	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	34,823,834	100.0	22,765,756	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

平成29年度 兵庫県高砂市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	34,412	33,620	792	598	24	33,873	
2 広域ごみ処理事業特別会計	1,506	1,506	-	-	271	-	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

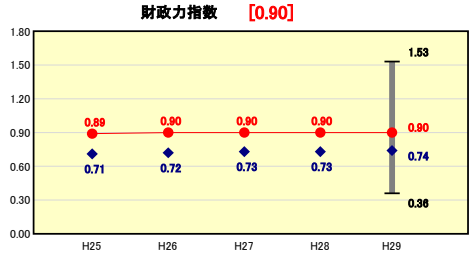
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	92,020	人(H30.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	90,930	人(H30.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	34.38	km ²	実質公債費比率	10.0	%
歳入総額	35,615,949	千円	将来負担比率	75.1	%
歳出総額	34,823,834	千円			
実質収支	597,638	千円	市町村類型	H25 II-2 H26 II-2 H27 II-2	
標準財政規模	20,321,588	千円	(年度毎)	H28 II-2 H29 II-2	
地方債現在高	33,872,725	千円			



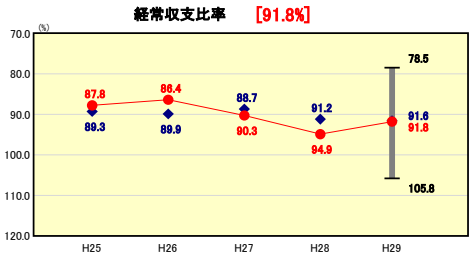
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※「定員管理の状況」及び「給与水準(国との比較)」は地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、平成29年度の数値については、前年度の数値を引用している。
 ※人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力



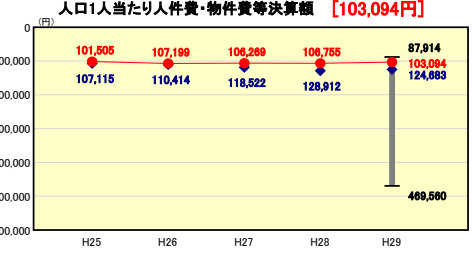
財政力指数の分析欄
 当市には大規模企業が集中しているため、平均を上回る税収があり、類似団体の中でも上位を保っている。高砂市行政経営プラン(平成29年度～平成32年度)では、「徴収率の向上」を引き続き推進すべき課題の一つとしており、徴収強化等自主財源の確保に取り組むとともに、第4次総合計画に沿った施策の重点化を図りながら、財政基盤強化に努めていく。

財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄
 法人市民税の減収等により、近年は類似団体平均を上回る水準で推移している。平成29年度においては、歳入について企業実績の回復により法人市民税収入が増加したこと、歳出について公債費が減少したこと等により、前年度より3.1ポイント改善した。今後も社会保障経費やインフラ・公共施設の改修・更新経費等の増大が懸念されるため、高砂市行政経営プランの実施計画に基づき、自主財源の確保と経費の削減に努めていく。

人件費・物件費等の状況

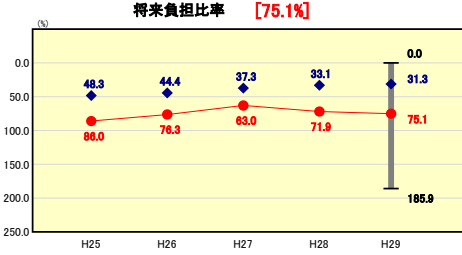


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人口1人当たり人件費・物件費等決算額は、類似団体平均、全国平均、兵庫県平均の全てと比較して下回っている。人件費については、定員適正化計画に基づき抑制を行ってきており、今後も引き続き計画に沿った中長期的な計画的採用を検討し、実施していく。物件費等についても事務事業の見直しにより徹底的な削減に努め、財政の適正化を図っていく。

平成29年度

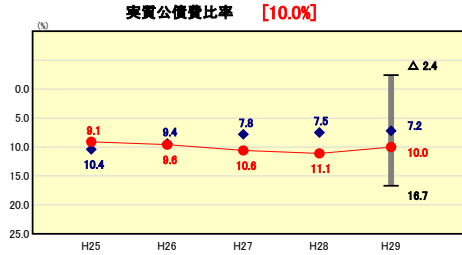
兵庫県高砂市

将来負担の状況



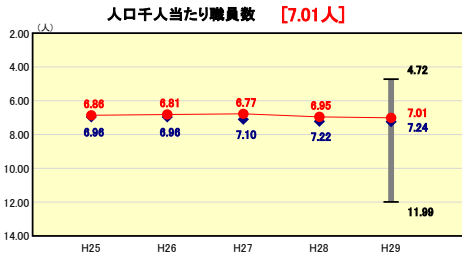
将来負担比率の分析欄
 平成28年度から3.2ポイントの増となり、類似団体平均を大きく上回っている。これは、下水道の整備をハイペースで進めてきたことで、下水道事業の地方債残高が増え、一般会計以外の地方債の償還にあてるための繰入見込額が大きくなっていることが要因であると考えられる。また、土地開発公社の解散に伴い平成25年度に発行した第三セクター等改革推進債も影響している。一般会計においては、近年、行政改革により投資的事業を極力抑えてきたが、今後は下水道事業も含めて投資的事業の整理を行い、起債の発行を抑制することで、比率の改善に努めていく。

公債費負担の状況



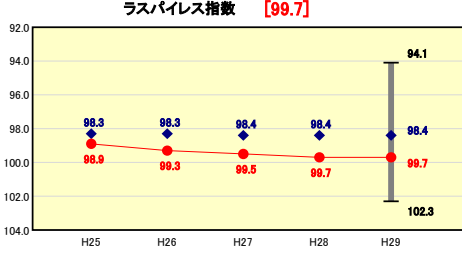
実質公債費比率の分析欄
 平成26年度から第三セクター等改革推進債の元利償還が始まり、実質公債費比率は増加しており、類似団体平均も上回っている。今後も第三セクター等改革推進債借入金償還が続いていくことから、建設事業債発行額の抑制等により、類似団体平均水準を維持できるよう努めていく。

定員管理の状況



人口千人当たり職員数の分析欄
 定員適正化計画による職員数の削減により、類似団体平均を下回る水準で推移している。今後も定員適正化計画に基づき、更なる人員削減を図るとともに、再任用及び任期付職員の任用を進めながら、総人件費の抑制を図っていく。

給与水準(国との比較)



ラスパイレス指数の分析欄
 ラスパイレス指数は、類似団体平均を上回る水準で推移している。今後も国や地域の民間給与を考慮しながら、勤務成績に応じた給与制度の確立、各種手当の適正化などにより、給与水準の適正化に取り組んでいく。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

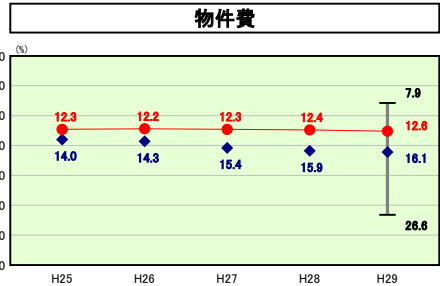
兵庫県高砂市

経常収支比率の分析

人	92,020	人(H30.1.1現在)	-	%
うち日本人	90,930	人(H30.1.1現在)	-	%
面積	34.38	km ²		
歳入総額	35,615,949	千円	実 質 赤 字 比 率	10.0
歳出総額	34,823,834	千円	結 算 赤 字 比 率	75.1
実質収支	597,638	千円	実 質 公 債 費 比 率	10.0
標準財政規模	20,321,588	千円	将 来 負 担 比 率	75.1
地方債現在高	33,872,725	千円	市 町 村 類 型	H25 II-2 H26 II-2 H27 II-2
			(年 度 毎)	H28 II-2 H29 II-2



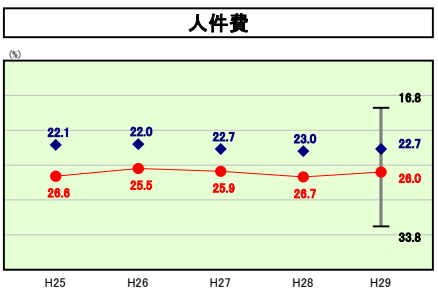
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 14/93 全国平均 14.5 兵庫県平均 12.5

物件費の分析欄

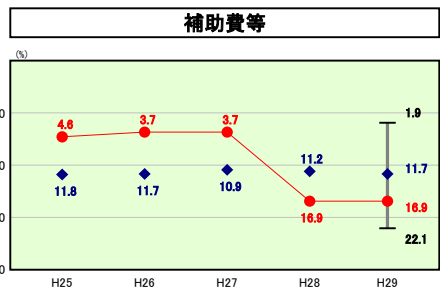
物件費にかかる経常収支比率は、近年同じ水準で推移しており、類似団体平均を下回っている。物件費の中では、多額の経費を要するごみ処理やごみ収集業務の委託を行っていること等から、委託料の比率が高い傾向にある。今後も高砂市行政経営プランでの事務事業の見直しにより、物件費の更なる削減を徹底していく。



類似団体内順位 76/93 全国平均 25.6 兵庫県平均 28.0

人件費の分析欄

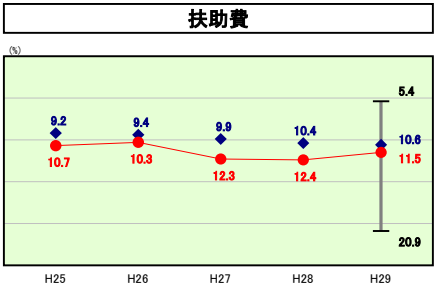
人件費にかかる経常収支比率は、類似団体平均を上回っているが、定員適正化計画による職員数の削減は達成してきており、引き続き、定員適正化計画等を基に、定員管理に努め、各種手当の見直し、公営企業の経営改善を徹底し、人件費比率を適正化していく。



類似団体内順位 76/93 全国平均 10.1 兵庫県平均 10.0

補助費等の分析欄

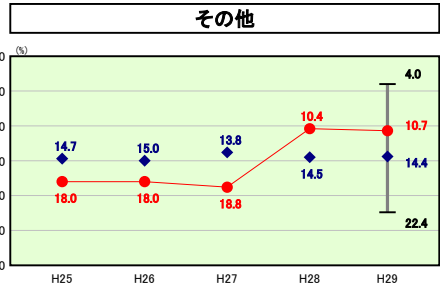
補助費にかかる経常収支比率は、類似団体平均、全国平均、兵庫県平均の全てと比較しても大きく下回っていたが、平成28年度から下水道事業が企業会計に移行したことにより、大きく上回る状況となっている。下水道事業について経費を節減するとともに、当初予算編成時に行っている補助金・負担金の見直しは、今後も引き続き取り組むこととし、適正、公平な補助金・負担金の交付に努めていく。



類似団体内順位 64/93 全国平均 12.4 兵庫県平均 12.9

扶助費の分析欄

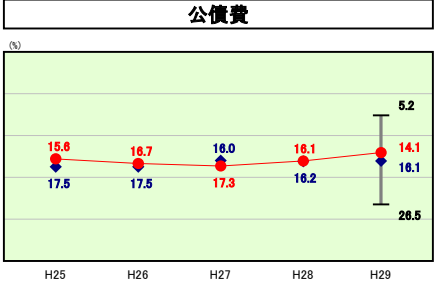
扶助費にかかる経常収支比率は、前年度から0.9ポイント改善している。当市は子ども・子育て支援の充実を重点施策の一つとしており、扶助費に占める児童福祉費の割合が大きいことが、類似団体平均を上回る要因となっている。今後においても、子ども・子育て支援の推進が見込まれることから、施策の重点を固め、市単独事業などを見直し、実施経費の抑制に努めていく。



類似団体内順位 13/93 全国平均 13.3 兵庫県平均 12.1

その他の分析欄

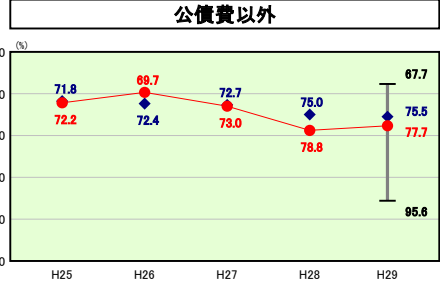
その他にかかる経常収支比率は、類似団体平均を上回って推移していたが、平成28年度から類似団体平均を下回っている。その他経費の主なもの各特別会計への繰出金であり、その中でも大きな割合を占めていた下水道事業が平成28年度より特別会計から企業会計に移行したことが主な要因である。引き続き、特別会計の経営改善を徹底するなど削減に努めていく。



類似団体内順位 31/93 全国平均 16.9 兵庫県平均 19.6

公債費の分析欄

公債費にかかる経常収支比率は、平成26年度に土地開発公社解散に伴う第三セクター等改革推進債の償還が開始されたこともあり、数値の悪化傾向にあったが、平成11～13年度に借り入れた臨時経済対策債にかかる償還の終了に伴い、平成28年度から改善傾向にあり、平成29年度においても前年度から2.0ポイント改善した。今後も事業の選択と集中により比率上昇の抑制に努めていく。



類似団体内順位 59/93 全国平均 75.9 兵庫県平均 75.5

公債費以外の分析欄

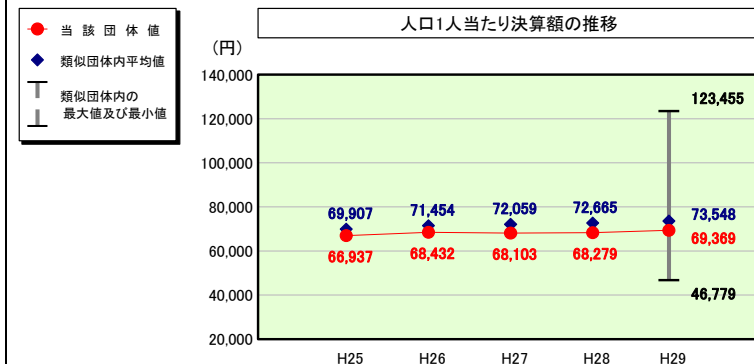
公債費以外にかかる経常収支比率は、類似団体平均値並みを推移している。今後も高砂市行政経営プランの各項目への取り組みを通じて経常経費の削減に努め、比率を抑制していく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

兵庫県高砂市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	6,112,711	66,428	61,846	7.4
賃金(物件費)	329,228	3,578	5,819	▲38.5
一部事務組合負担金(補助費等)	12	0	5,868	▲100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	260,942	2,836	1,247	127.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	0	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	239,791	2,606	2,376	9.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	98,756	1,073	1,663	▲35.5
▲退職金	▲658,080	▲7,151	▲5,271	35.7
合計	6,383,360	69,369	73,548	▲5.7

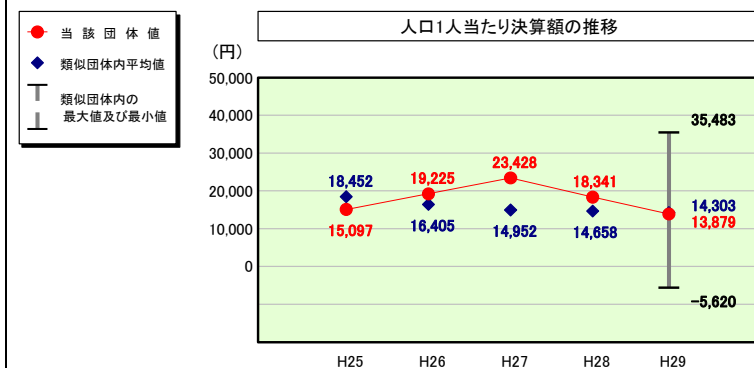
参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.01	7.24	▲0.23
ラスパイレス指数	99.7	98.4	1.3

(注) 人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(注) 参考については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

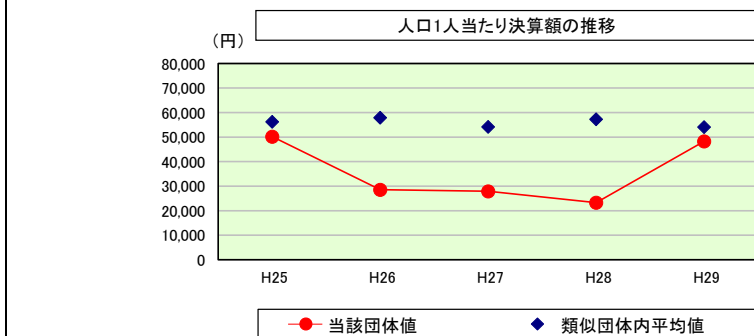


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	3,018,091	32,798	39,633	▲17.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	58	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,640,741	28,697	13,693	109.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	1,763	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	897	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲1,095,245	▲11,902	▲5,566	113.8
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲3,286,420	▲35,714	▲36,175	▲1.3
合計	1,277,167	13,879	14,303	▲3.0

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

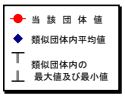
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H25	4,734,604	50,203	120.4	56,255	22.9	97.5
うち単独分	1,953,480	20,714	22.9	26,957	8.8	14.1
H26	2,678,649	28,566	▲43.1	57,944	3.0	▲46.1
うち単独分	1,166,084	12,436	▲40.0	29,326	8.8	▲48.8
H27	2,604,198	27,895	▲2.3	54,227	▲6.4	4.1
うち単独分	888,532	9,518	▲23.5	29,694	1.3	▲24.8
H28	2,158,766	23,270	▲16.6	57,295	5.7	▲22.3
うち単独分	1,015,645	10,948	15.0	32,771	10.4	4.6
H29	4,446,943	48,326	107.7	54,110	▲5.6	113.3
うち単独分	1,885,911	20,495	87.2	30,620	▲6.6	93.8
過去5年間平均	3,324,632	35,652	33.2	55,966	3.9	29.3
うち単独分	1,381,930	14,822	12.3	29,874	4.5	7.8

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

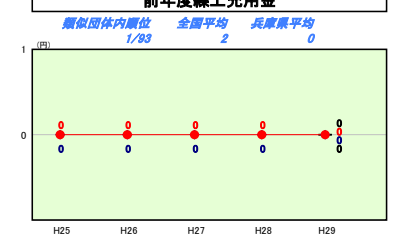
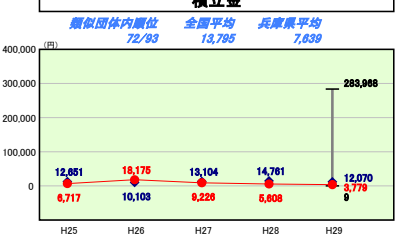
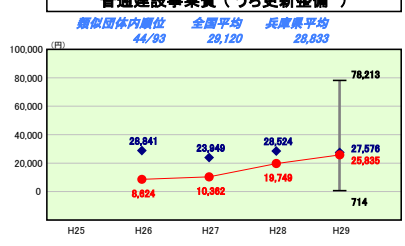
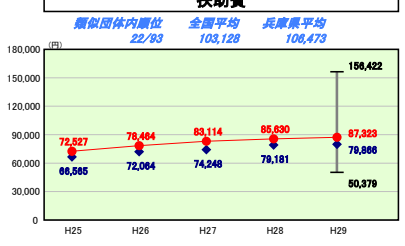
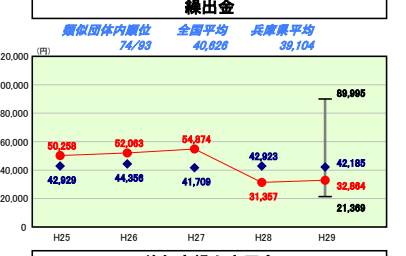
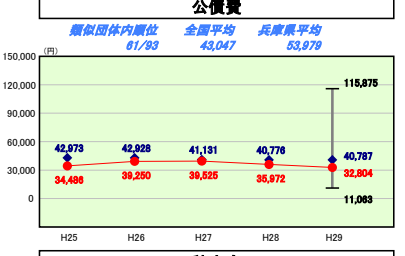
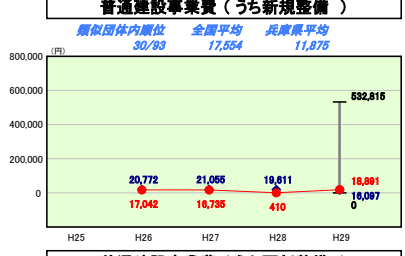
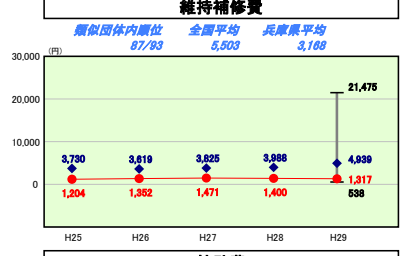
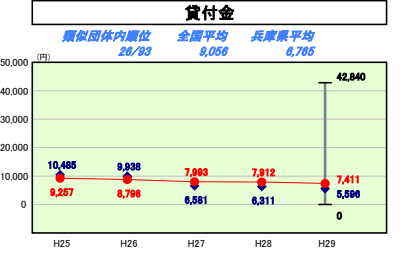
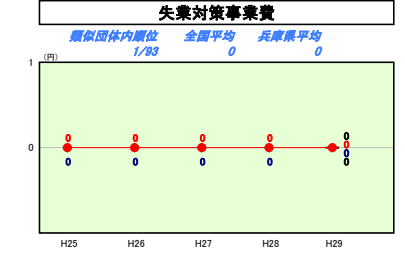
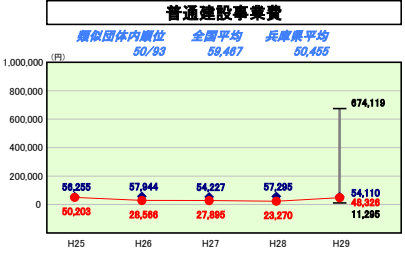
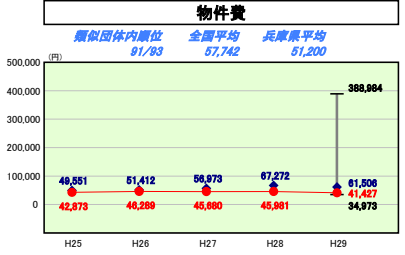
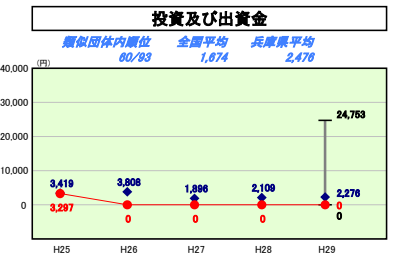
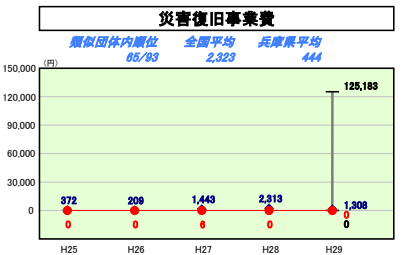
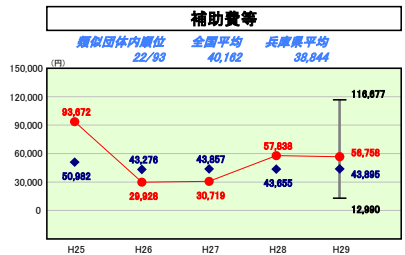
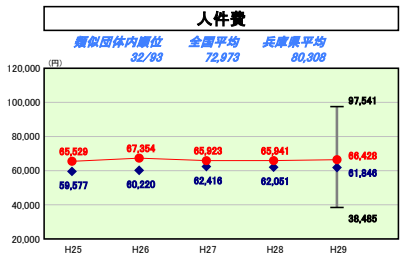
平成29年度

兵庫県高砂市

人口	92,020人(980.1.1現在)	実収赤字比率	-	%			
うち日本人	90,930人(980.1.1現在)	通算実収赤字比率	-	%			
面積	34.38km ²	実収公債費比率	10.0	%			
世帯数	35,616,949世帯	将来負担比率	75.1	%			
歳入総額	34,823,834千円	市町村類型	H25 II-2	H26 II-2	H27 II-2	H28 II-2	H29 II-2
歳出総額	597,838千円	(年度毎)	H25 II-2	H26 II-2	H27 II-2	H28 II-2	H29 II-2
実収取支	20,321,588千円						
標準財政規模	33,872,725千円						
地方債現在高							



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

人件費、扶助費について、類似団体と比較して一人当たりコストが高い状況が近年続いている。人件費では、定員適正化計画の進捗により住民一人当たりの職員数では類似団体平均を下回っているものの、年齢構造等の影響により退職手当組合負担金が類似団体平均と比較して高い水準にあることが主な要因となっている。扶助費では、生活保護費と当市において子ども・子育て支援の充実を重点施策の一つとしてしているため児童福祉費の割合が大きいために類似団体平均と比較して高い水準にあることが主な要因となっている。補助費等と繰出金について、下水道事業が平成28年度より特別会計から企業会計に移行したことにより、下水道事業への繰出金の性質が「繰出金」から「補助費等」になり金額が大きく変動している。補助費等で類似団体と比較して一人当たりコストが高いのは、下水道事業の公債費に対する繰出金が多額であることが主な要因となっている。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

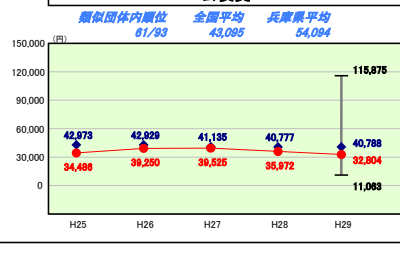
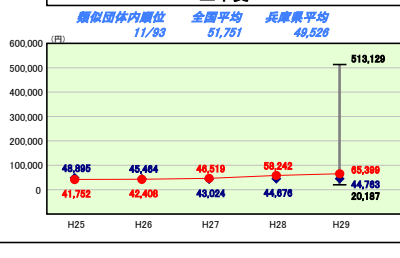
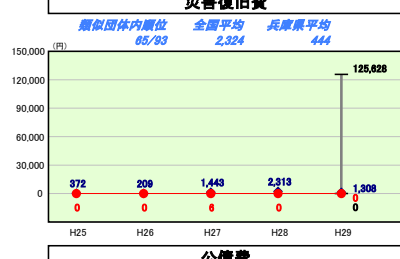
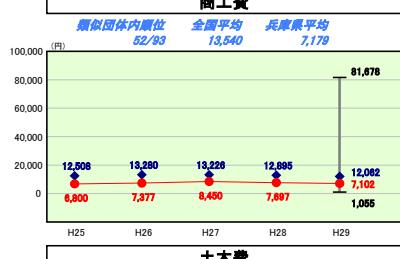
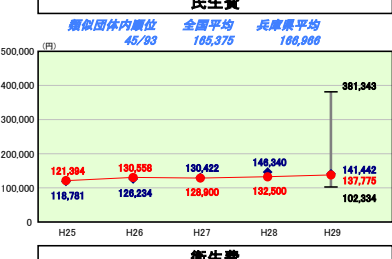
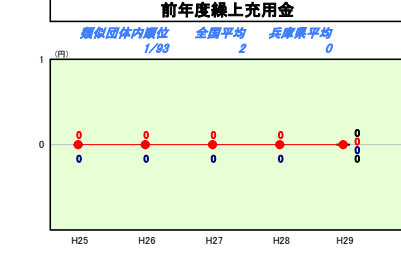
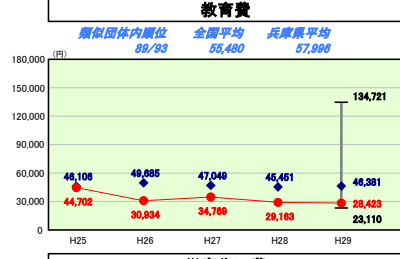
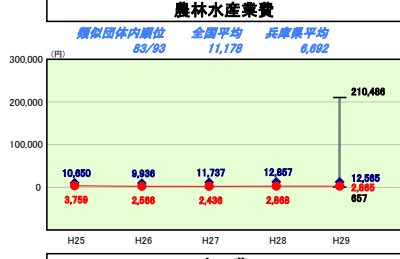
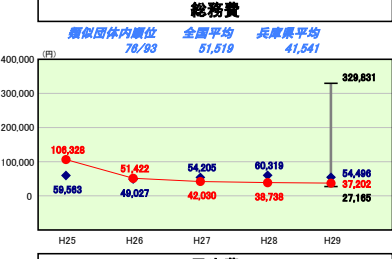
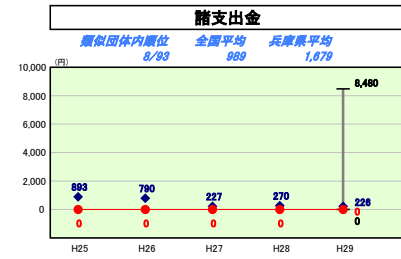
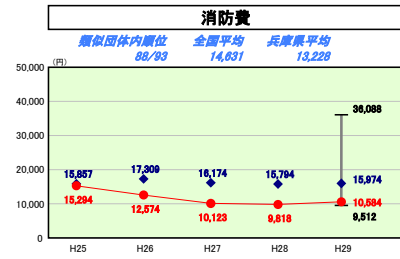
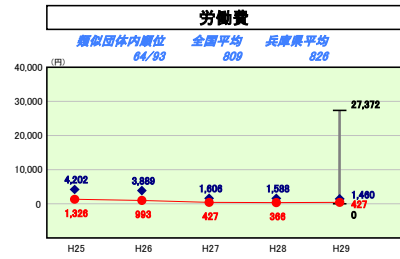
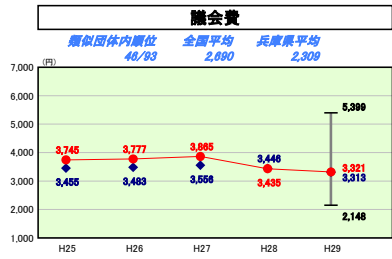
平成29年度

兵庫県高砂市

人口	92,020人(980.1.1現在)	実収赤字比率	-	%			
うち日本人	90,930人(980.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%			
面積	34.38km ²	実収公債費比率	10.0	%			
歳入総額	35,616,949千円	将来負担比率	75.1	%			
歳出総額	34,823,834千円	市町村類型	H25 II-2	H26 II-2	H27 II-2	H28 II-2	H29 II-2
実収収支	597,838千円	(年度毎)					
標準財政規模	20,321,588千円						
地方債現在高	33,872,725千円						



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



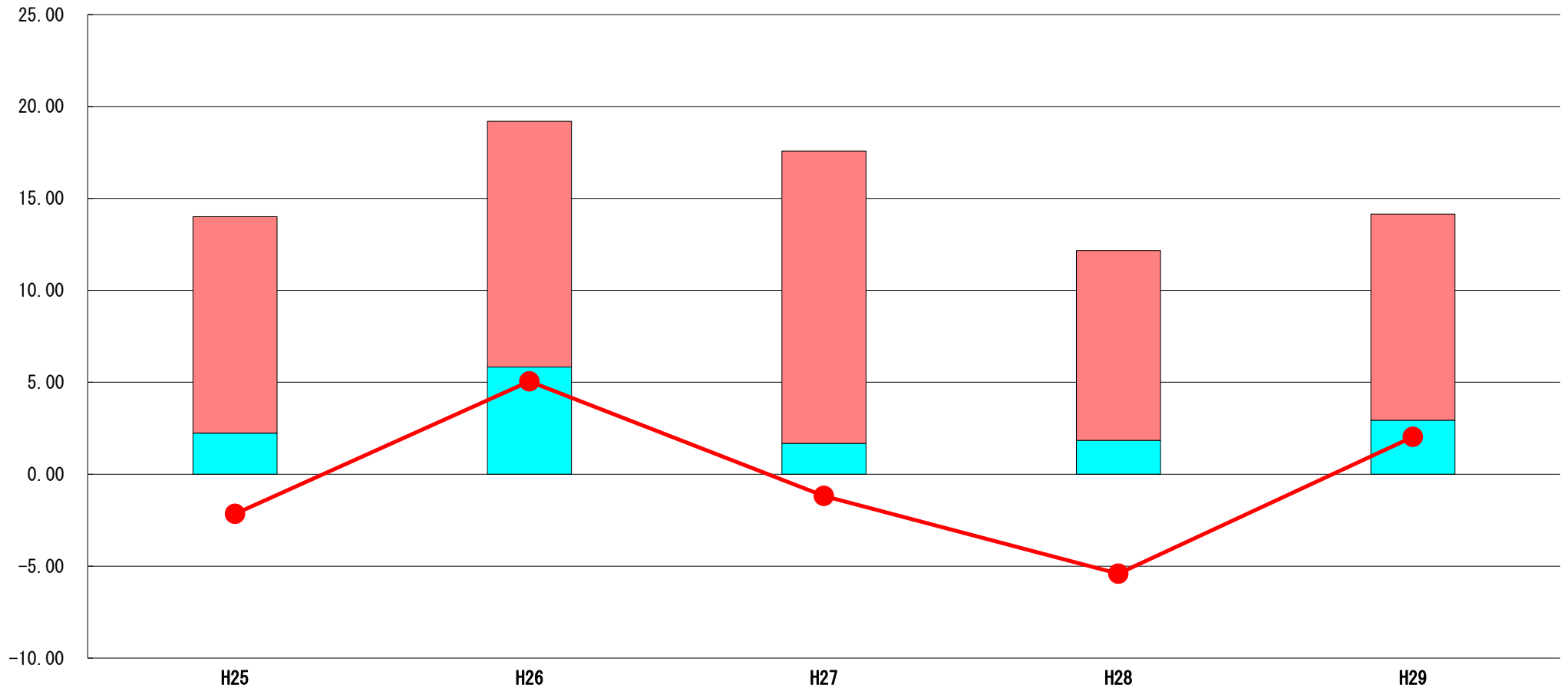
目的別歳出の分析値
 衛生費が類似団体平均に比べ高止まりしているのは、ごみ処理やごみ収集業務の委託料等による物件費、病院事業会計への繰入金等による補助費等が高い水準であることが主な要因である。また、平成29年度から広域ごみ処理施設の建設が本格的に始動したため、住民一人当たりのコストが10.427円増加している。土木費については、類似団体平均を下回る水準で推移してきたが、平成27年度から当市の重点施策の一つである治水事業の鹿島川・松村川整備事業等が本格実施され、平成28年度からは、下水道事業会計への繰出金の増により類似団体平均を上回っている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成29年度

兵庫県高砂市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H25	H26	H27	H28	H29
 財政調整基金残高		11.77	13.37	15.89	10.32	11.21
 実質収支額		2.24	5.83	1.68	1.84	2.94
 実質単年度収支		▲ 2.16	5.05	▲ 1.18	▲ 5.41	2.03

分析欄

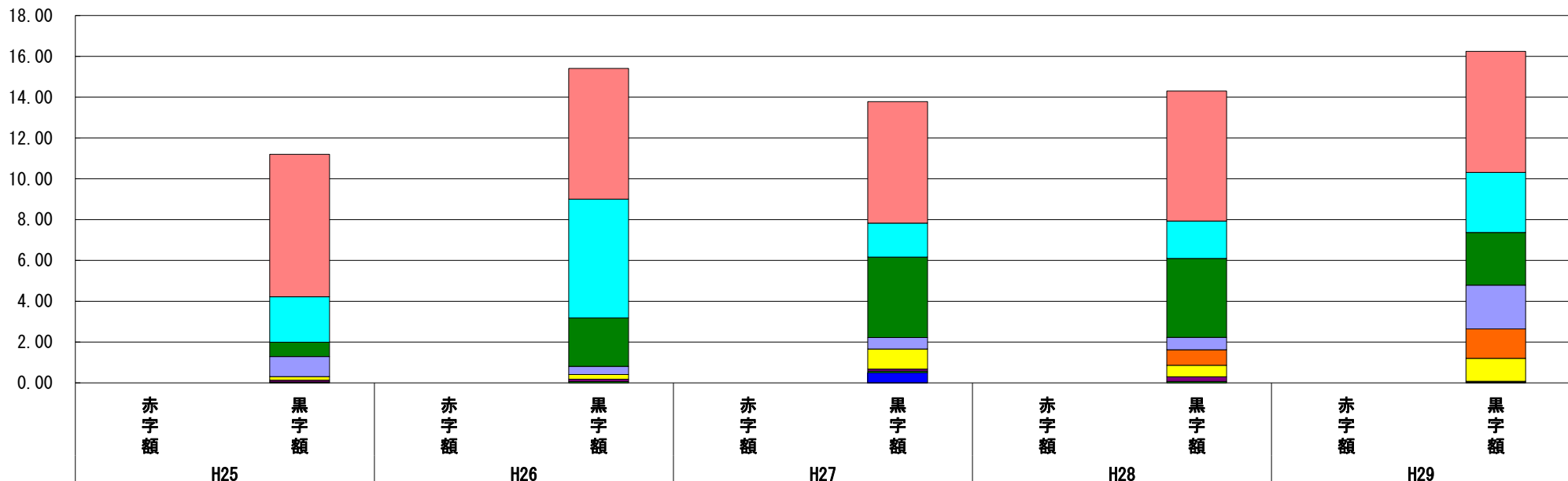
財政調整基金残高は、市税収入等が前年比増収となったこと等により、0.89ポイントの増となっている。実質収支額は、5億9,763万8千円の黒字となっている。近年は各年度とも黒字を計上しており、健全な状態を維持している。平成29年度の実質単年度収支は、平成26年度以来の黒字となっている。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成29年度

兵庫県高砂市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H25	H26	H27	H28	H29
水道事業会計		6.98	6.41	5.95	6.37	5.93
一般会計		2.23	5.82	1.67	1.83	2.94
病院事業会計		0.70	2.37	3.94	3.87	2.58
国民健康保険事業特別会計		0.98	0.40	0.56	0.61	2.15
下水道事業会計		-	-	-	0.76	1.44
介護保険事業特別会計		0.18	0.23	0.98	0.56	1.12
後期高齢者医療事業特別会計		0.09	0.11	0.11	0.23	0.04
工業用水道事業会計		0.04	0.07	0.06	0.07	0.04
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.51	0.00	0.00

分析欄

全ての会計において黒字であり、近年は安定して健全性が保たれている。平成24年度から赤字は生じておらず、今後も各会計において、適正な財政運営を行い、現在の状況を維持していく。

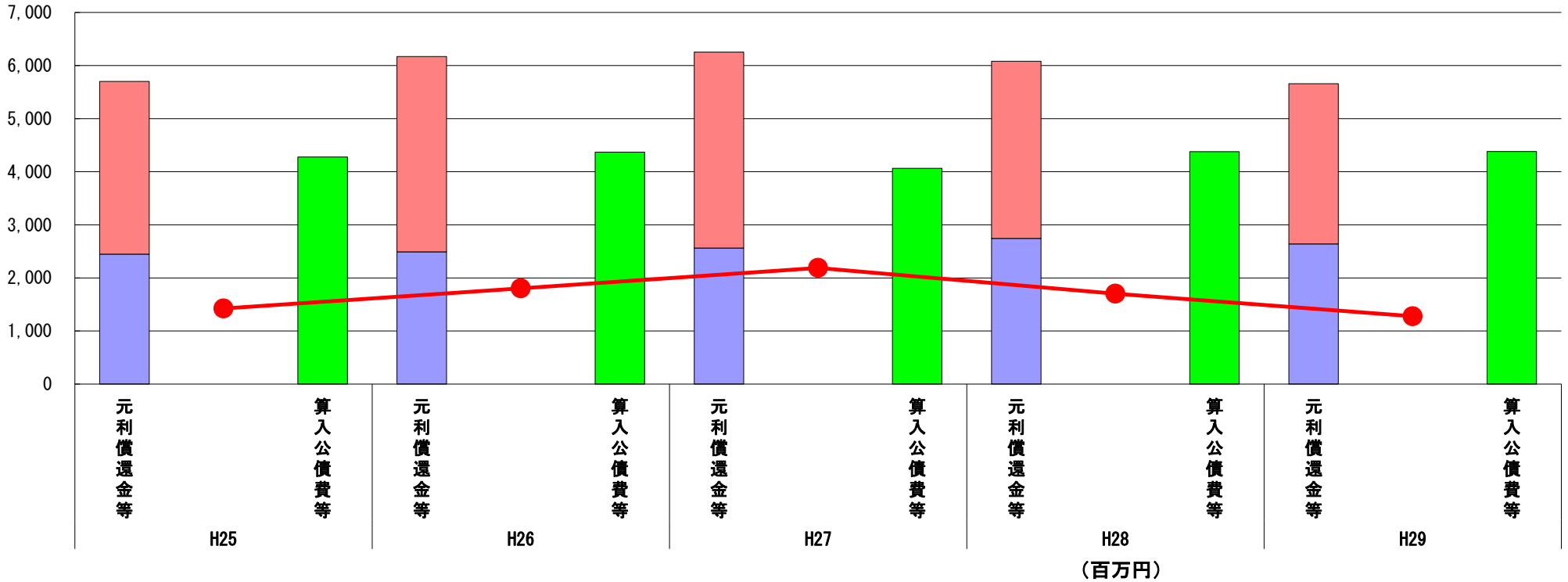
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

兵庫県高砂市

(百万円)



分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金		3,251	3,679	3,689	3,337	3,018
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,449	2,492	2,563	2,743	2,641
	組合等が起した地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		0	0	0	0	-
	一時借入金の利子		0	0	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		4,277	4,369	4,064	4,378	4,381
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,423	1,802	2,188	1,702	1,278

分析欄

元利償還金については、平成26年度から土地開発公社解散に伴う第三セクター等改革推進債にかかる償還金の影響で増加状態が続いていたが、平成11～13年度に借り入れた臨時経済対策債にかかる償還の終了に伴い、平成28年度から減少傾向にあり、平成29年度においても対前年度比319百万円の減となっている。公営企業債の元利償還金に対する繰入金については、下水道事業の抑制により、102百万円の減となっている。

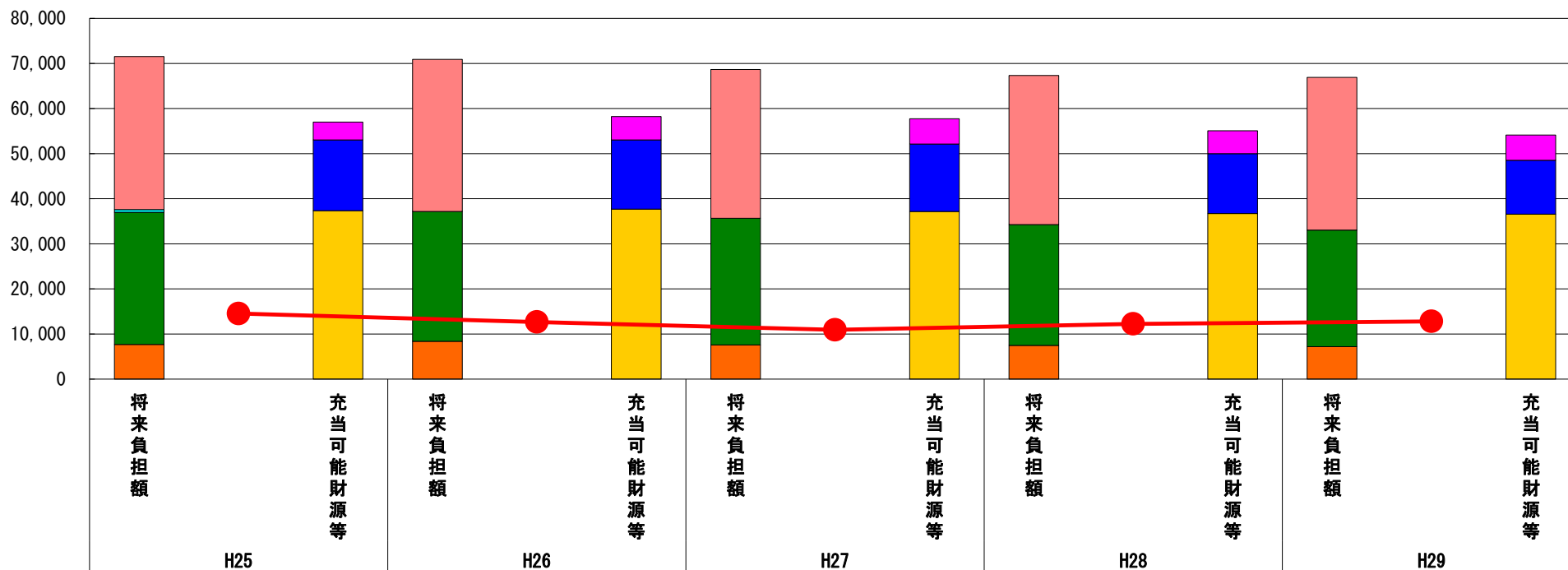
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

兵庫県高砂市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		33,946	33,736	32,977	33,055	33,873
	債務負担行為に基づく支出予定額		590	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		29,323	28,791	28,096	26,804	25,867
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		7,679	8,375	7,590	7,459	7,185
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,967	5,194	5,581	5,084	5,597
	充当可能特定歳入		15,658	15,344	14,971	13,250	11,933
	基準財政需要額算入見込額		37,369	37,689	37,174	36,736	36,587
(A) - (B)	将来負担比率の分子		14,544	12,675	10,938	12,249	12,809

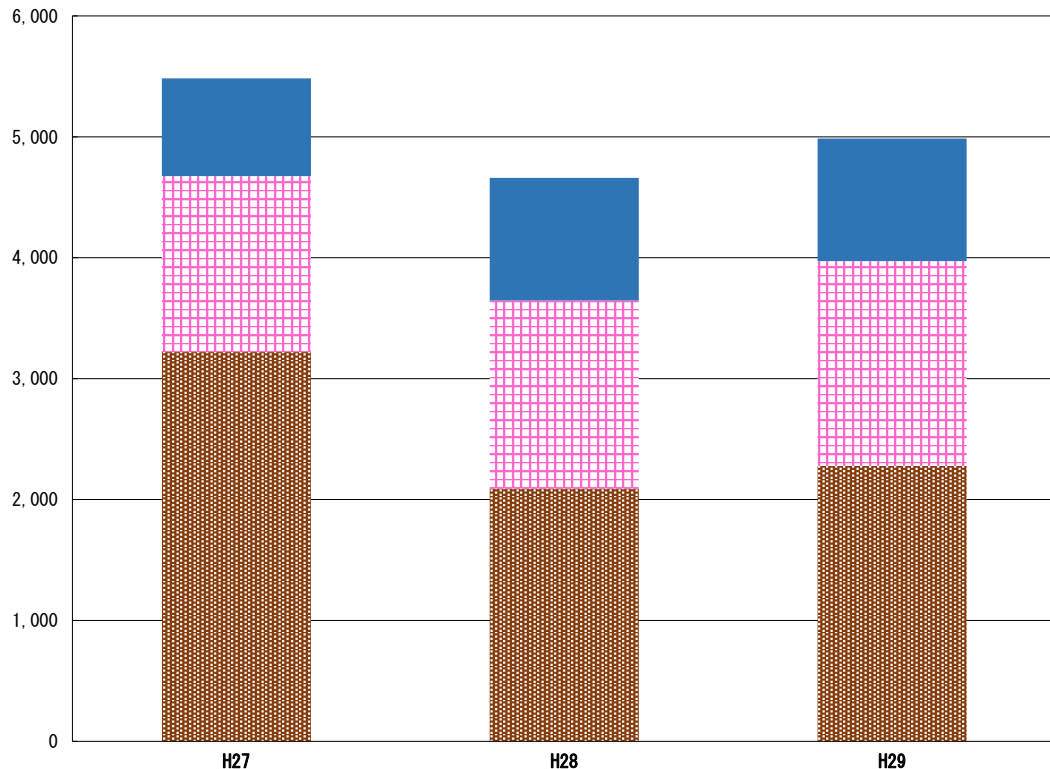
分析欄

一般会計等に係る地方債の現在高については、平成25年度の土地開発公社解散に伴う第三セクター等改革推進債発行の影響で、平成24年度以前と比較すると、増加した状態が続いているものの、企業債償還の進捗などにより、公営企業債等繰入見込額が減少し、将来負担額全体としては、393百万円の減となっている。充当可能財源等については、都市計画税の減少により、953百万円の減となっている。分子全体では、対前年度比560百万円の増となっている。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	H27	H28	H29
財政調整基金 減債基金 その他特定目的基金	財政調整基金	3,220	2,091	2,278
	減債基金	1,455	1,555	1,694
	その他特定目的基金	808	1,015	1,014
	庁舎建設基金 リサイクル基金 コミュニティ基金	677 121 10	900 107 8	900 107 7
基金残高合計		5,483	4,661	4,985

平成29年度

兵庫県高砂市

基金全体

(増減理由)

法人市民税の増収等により財政調整基金に187百万円積み立てたこと、工業公園土地売却収入を減債基金に139百万円積み立てたこと等により、基金全体としては324百万円の増となった。

(今後の方針)

短期的には減債基金への積立てを予定しているが、庁舎建設基金の取崩しにより微減となる見込みであり、平成35年度には第三セクター等改革推進債の借換えを予定しており、それに合わせて減債基金を全て取り崩す予定のため、大きく減少する。

財政調整基金

(増減理由)

企業実績の回復による法人市民税の増収

(今後の方針)

財政調整基金の残高は、標準財政規模の10%から15%の範囲内となるように努めることとしている。

減債基金

(増減理由)

工業公園土地売却収入を139百万円積み立てたことによる増加

(今後の方針)

第三セクター等改革推進債の早期償還に向けて、平成35年度までに20億円程度を積立予定

その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・庁舎建設基金：庁舎建設事業に要する経費
- ・リサイクル基金：市が処理するごみから回収する再生資源の売却収益の効率的運用とごみの減量化・再資源化の推進
- ・コミュニティ基金：市民主体のコミュニティの形成及び活動並びに快適な環境整備を推進するためにコミュニティ活動推進地区を指定し、その地区における心のふれあう住みよいまちづくりへの取組

(増減理由)

・コミュニティ基金：コミュニティセンター管理運営補助金に充当するため取り崩したことによる減少

(今後の方針)

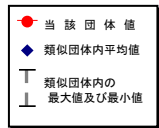
・庁舎建設基金：平成30年度より新庁舎建設事業が本格的に始動するため、一般財源部分について取崩し予定

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

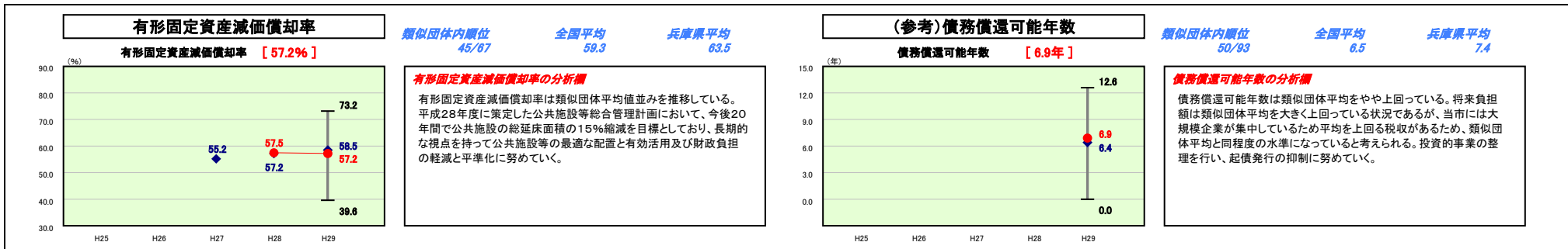
平成29年度

兵庫県高砂市

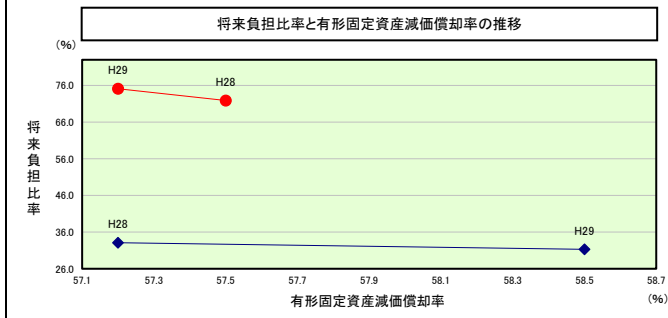
人口	92,020	人(H30.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	90,930	人(H30.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	34.38	km ²	実質公債費比率	10.0	%
歳入総額	35,615,949	千円	将来負担比率	75.1	%
歳出総額	34,823,834	千円	市町村類型	H25 II-2 H26 II-2 H27 II-2	
実収支	597,638	千円	(年度毎)	H28 II-2 H29 II-2	
標準財政規模	20,321,588	千円			
地方債現在高	33,872,725	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還可能年数、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

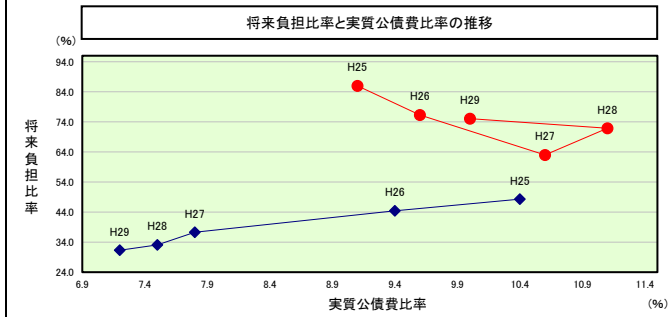


分析欄
将来負担比率が類似団体平均を大きく上回っている一方、有形固定資産減価償却率は類似団体よりもやや低い水準となっている。持続可能な行政経営を行うために、財政負担の軽減と平準化を図りながら施設の老朽化対策に取り組んでいく。

(参考)

		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率				71.9	75.1
	有形固定資産減価償却率				57.5	57.2
類似団体内平均値	将来負担比率				33.1	31.3
	有形固定資産減価償却率				57.2	58.5

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
将来負担比率、実質公債費比率ともに、類似団体平均を大きく上回っている。平成25年度の土地開発公社解散に伴う第三セクター等改革推進債発行と、下水道の整備をハイペースで進めてきたことによる下水道事業債の償還にあてるための繰入見込額が大きくなっていることが主な要因である。建設事業債発行額の抑制等により、比率の改善に努めていく。

(参考)

		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率	86.0	76.3	63.0	71.9	75.1
	実質公債費比率	9.1	9.6	10.6	11.1	10.0
類似団体内平均値	将来負担比率	48.3	44.4	37.3	33.1	31.3
	実質公債費比率	10.4	9.4	7.8	7.5	7.2

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

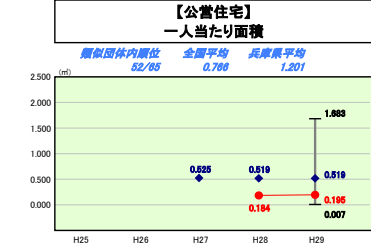
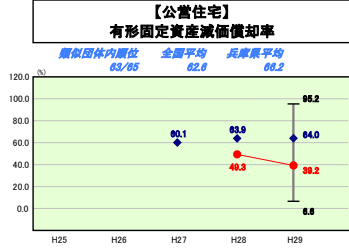
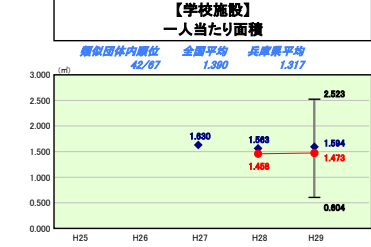
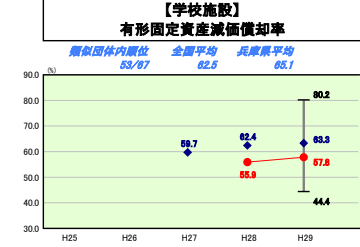
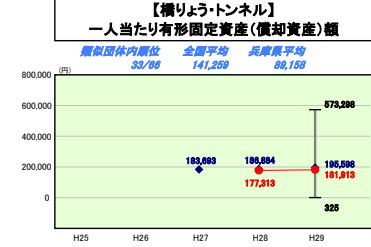
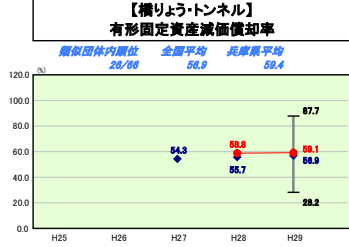
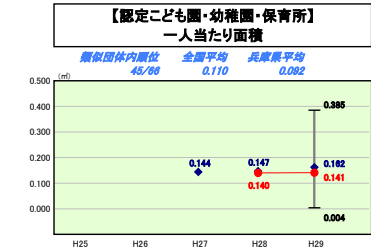
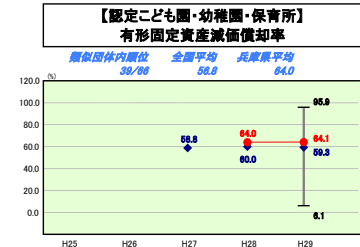
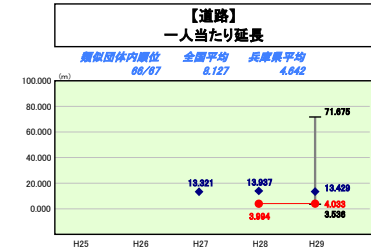
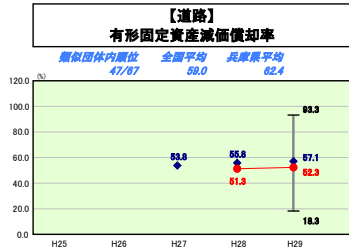
平成29年度

兵庫県高砂市

人口	92,020	人(990.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	90,990	人(990.1.1現在)	道庁実質赤字比率	-	%
面積	34.38	km ²	実質公債費比率	10.0	%
歳入総額	35,615,940	千円	将来負担比率	75.1	%
歳出総額	34,823,834	千円	市町村類型	H25 II-2 H26 II-2 H27 II-2	
実収支	597,638	千円	(年度毎)	H28 II-2 H29 II-2	
標準財政規模	20,321,588	千円			
地方債現在高	33,672,725	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成28年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

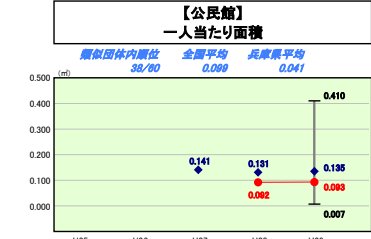
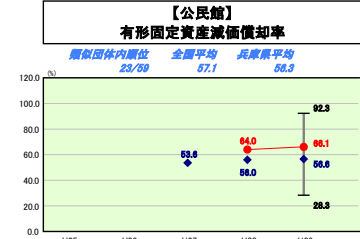


該当数値なし

該当数値なし

該当数値なし

該当数値なし



施設情報の分析
 類似団体と比較して特に有形固定資産減価償却率が高くなっている施設は公民館である。公営住宅については、老朽化した市営住宅の除却と平成29年度に中筋市営住宅を建替えたことにより、有形固定資産減価償却率が低くなっている。平成29年1月に、今後20年間で公共施設の総延床面積の15%縮減を目標とした公共施設等総合管理計画を策定している。令和2年度には公共施設をサービスハードの両面から見直し、施設の最適な配置と計画的な保全を組み合わせた個別施設計画である公共施設最適化計画を策定し、個々の施設について、今後どのようにしていくのか、施設の維持管理費用の減、予防保全、改修、長寿命化、建替、廃止等について定める予定で、公共施設等総合管理計画の着実な推進に努めていく。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

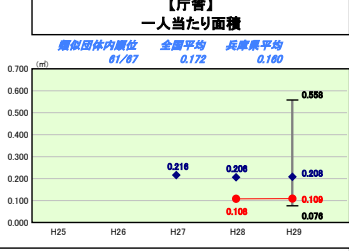
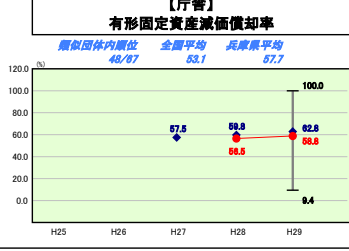
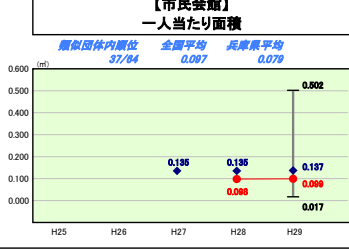
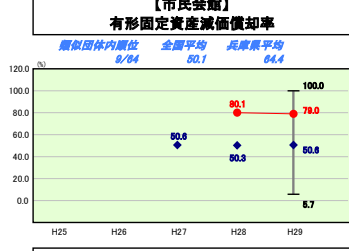
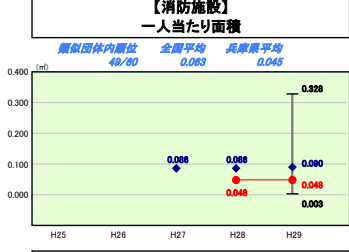
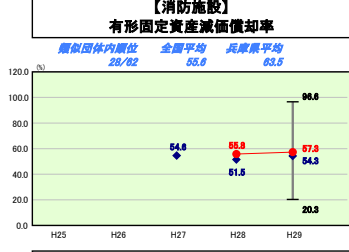
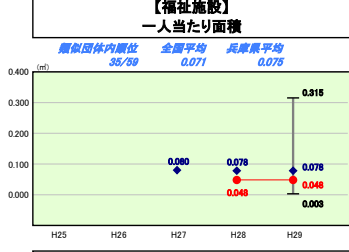
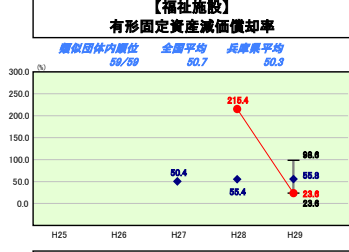
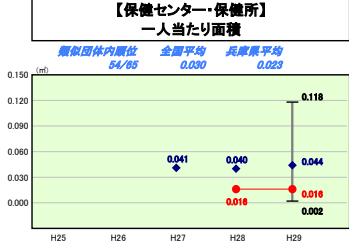
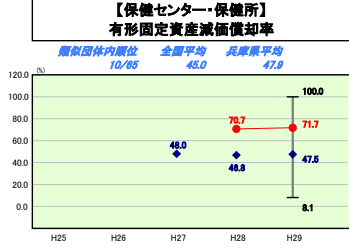
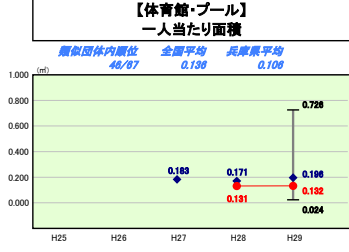
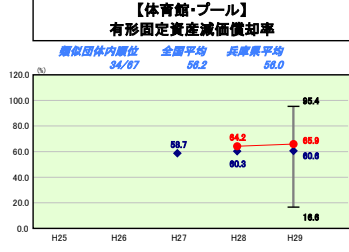
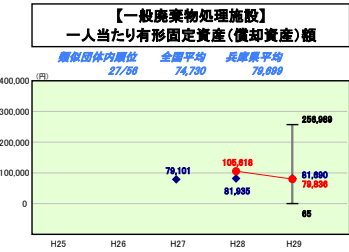
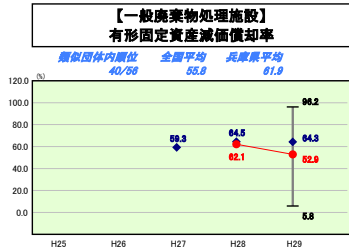
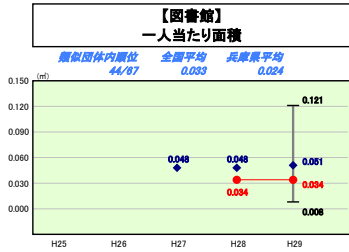
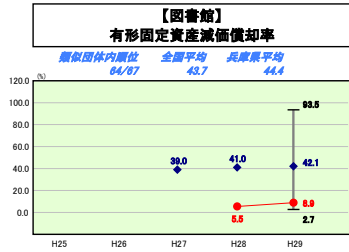
平成29年度

兵庫県高砂市

人口	92,020人(990.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	90,990人(990.1.1現在)	運前実質赤字比率	-%
面積	34.38km ²	実質公債費比率	10.0%
歳入総額	35,615,940千円	将来負担比率	75.1%
歳出総額	34,823,834千円	市町村類型	H25 II-2 H26 II-2 H27 II-2
実収支	597,638千円	(年度毎)	H28 II-2 H29 II-2
標準財政規模	20,321,588千円		
地方債現在高	33,672,725千円		

- 当該団体の値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┆ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成28年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析
 類似団体と比較して特に有形固定資産減価償却率が高くなっている施設は、市民会館と保健センターである。現在、令和4年度完成を目指して新庁舎を建設中であり、本庁舎の建設に併せて南庁舎の一部を改修し保健センターに転用する予定である。図書館については、平成27年度に新施設を建設したため有形固定資産減価償却率が低くなっている。
 ※福祉施設の平成28年度の有形固定資産減価償却率「215.4%」は誤りで、正しくは「21.5%」です。